



地域医療連携室通信

2012 (H24) 4月号 (第66号)

上天草市立上天草総合病院 地域医療連携室

TEL・FAX : 0969-62-1547(直通)

住所: 866-0293 熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1419-19

電話: 0969-62-1122(代) FAX: 0969-62-1546

URL: <http://www.cityhosp-kamiamakusa.jp/>

発行責任者: 地域医療連携室長 福田 誠



上天草市立上天草総合病院 新病院長挨拶

『元気がでる病院、
地域が元気になる病院』

もの人が、毎日利用する場所です。これだけ大勢の人が交わり、そこで元気がいっぱい生まれる場所であれば素晴らしいと思います。



サカモト タクヨシ
坂本興美
病院長

【今年度の上天草総合病院の目標】

病院は市民のみなさんや医師会のみなさんの応援で経営が安定し、つぎにどう発展させるかという段階にはいっています。今年度は人工腎臓透析室や内視鏡室など手狭になった建物内部の改修とレントゲンフィルムを使わずにどこでも画像をみることができるシステムの導入にとりかかり、能力向上をはかることにしています。病院機能評価の受審も秋には予定しています。

ところで病院の機能向上をはかるそもそもの目的はなにでしょうか。それは病院があることで、この地に暮らす人が元気になることだと思います。そのためにはわたしたちが仕事をするときの関心が、病院を訪れてくださった方々だけでなく、病院のある天草の地にまんべんなく向くようにしなければならないと思います。

【大勢の人が交わる場所から元気がいっぱい生まれるように】

さて病院を利用する人はいったい、どれだけののでしょうか。受診する方と入院している方はあわせて日々、700名から800名、きららの里に入所している方とデイケアを利用している方が70名から80名、看護学校で学ぶ学生が120名、職員が350名、そして病院に出入りする業者さんがいます。その数までいれると1500名



【新体制】

4月から病院は新体制で臨みます。病院長を私が務めます。きららの里の施設長は私にかわって副院長の福田先生が就きます。また以前一緒に仕事をした外科の蓮尾先生が副院長として戻って来てくれました。そして樋口先生はこれまで同様引き続き病院事業管理者として、私たちを支えてくださいます。

私は奈良で大学を卒業して10年間精神科医としての訓練を受け、大学と滋賀県の総合病院で仕事をしました。その後2年間神戸で、当時日本ではじまったばかりの有料老人ホームの有床診療所の仕事をしました。それから上天草総合病院で昭和63年から仕事をしてきました。ここでは内科全般の内容と総合病院の精神科にかかわってききましたが、きららの里ができてから特に高齢者の疾患にかかわることが増えました。そこで感じたことは、お会いする患者さんがこの地でくらしにくうえでなにを一番必要としておられるかについて、おもいをめぐらすのが大事ということでした。今後もそのことを大切にしていきたいと思えます。

【在宅でなくなる事ができる病院】

在宅療養を応援するために看護師がご自宅にうかがうだけでなく、わたしたち医師も往診を積極的に位置付けています。

なかには終末期の時間をご自宅ですごしたいと患者さんが希望される在宅療養もあります。ただそのためにご家族が看病されて不安におもわれるのは、いざ息が止まったとき、どうしたらよいかということです。

そこでわたしたちがお伝えしていることは、家できちんとお別れをすることができる、ということです。つまりたとえ深夜であろうとも息がとまったときは、病院の医師が家にうかがって、最後のみとりをさせていただきます。

昨年わたしが往診をしてご自宅で終末期をむかえられた患者さんも、亡くなられたのはちょうど、わたしが不在のときでした。しかし当直の医師や看護師は患者さんの事情を知っているので、わたしのかわりに当直医がお家にうかがい、お別れをさせていただきました。なおそのために当直医が病院を空けるときは、もうひとりの当番当直医が病院にいて、代理をつとめています。



【天草上島の入院施設】

当直をする医師は12名、常勤の医師は20名です。応援にきてくださる先生をあわせた診療体制は別紙のお知らせのとおりです。入院病床数は一般病床が137床、亜急性病床12床、療養病床46床、計195床です。

さて医師会の先生方からご紹介をいただくためには、必要なとき必要な内容の治療ができないといけないとおもっています。

病院の病床数はかぎられています。一方、病院の入院施設としては、天草上島にただ一つの役割をになっています。したがって円滑な入院退院を

促進することが必要です。

最近ではご紹介いただいた患者さんにとどまらず病状が安定した他の患者さんも含めて、医師会の先生方の診療所や施設の病床に、退院後の療養をお願いすることが増えてきました。大変ありがたく思っております。

【退院後も安心して療養できる病院】

そのために地域連携室が大きな役割を担っています。

また、病院ときららの里に所属するリハビリテーションの専門職が増えました。理学療法士が5名、作業療法士が2名、言語聴覚士が1名。対象とする内容も従来の、脳血管疾患、心大血管疾患、運動器、呼吸器にくわえて言語障害や摂食機能障害への対応も可能になりました。

【上天草総合病院で仕事をしようと集まってきた医師たち】

さてわたしたちの病院の医師たちの構成には特徴があります。それは以前大学の医局や熊本県から派遣され上天草総合病院でしごとをしてくださった先生たちが、そののち他の病院でしごとをされた後こんどは、みずから希望してわたしたちの病院にもどってきてくださる方がおおいことです。

理由はさまざまですが、共通しているのは医師としてのレベルアップを刺激するものが病院にあるからだとおもいます。

もういちど、混沌としたなかでエネルギーが湧きあがる組織であるように。

医療も介護も診療報酬改定への対応に、急き立てられている毎日です。変化のなかでこそ生まれるあたらしいエネルギーをうまく身につけていきたいとねがうところです。

ヘリ搬送



地域医療連携室専任の挨拶

このたび、4月の人事により秘書室から地域医療連携室へ異動となりました。うん年前、桜吹雪の中をワクワク、ドキドキしながら入職した日を思い出し、フレッシュな気持ちで頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。



地域医療連携室担当

モリグチ ルミ
○森口留美

早春の上天草において今年で40回を迎えたパールラインマラソン。

40年連続出場の方が6人。上天草市に3★年住みながら、ボランティアの形ではありますが初めて参加した私は、ただただ驚くばかりでした。

上天草総合病院より樋口院長、坂本医師、山城医師、看護師3名でボランティアへAEDを持参し、カイロを2個貼り付け参加しました。東北大震災への黙祷が行われ、オープニングでは太鼓、フラダンスが披露されていました。自分のウエストも引き締まらないものか、フラダンスを習いにいこうかと思うぐらいとても素敵でした。エアロビクスの準備体操では、一緒に体操し身体を温めながら自分の運動不足を痛感させられました。

看護師のボランティア活動として、血圧測定、健康相談となっていました。血圧測定では上天草市役所の保健師の方と共に参加選手の出発前の血圧測定を行いました。実年齢に見えない80歳代の方、血圧の内服を行っている方など様々でした。血圧測定後「いつもより高いな。」という方も数人ありました。医師の的確なアドバイスもあり、安心されレースへ臨んでいかれたのではないかと思います。しまだ小児科の島田医師より激励を頂き感謝。当院の選手として参加した職員からも激励を頂き感謝。血圧測定を行い、記録していて気付いたことに選手として参加した、某医師が一

番高い血圧を示していました。医者の方の…。

レースを終えた選手の中には再び血圧測定され、低下している血圧に一安心。冷えきって手が痺れたという方に一つカイロを渡し、自分も役に立てたかなと自己満足。最後の選手が無事ゴールを迎え、AEDの出番もなく安心しました。選手の皆さん良い表情で汗をかかれています姿には感動しました。

今回ボランティア活動に参加できたことを嬉しく思い来年は、ぜひ選手として参加しようと思いました。



「日本における循環器疾患のエビデンス」

～二次予防から一次予防へ～

熊本大学大学院生生命科学研究部 循環器病態学
教授 小川 久雄 先生



平成24年3月5日熊本大学 循環器内科教授 小川久雄先生による講演会が開催されました。先生のご都合により遅い時間からの開催にも関わらず、多くの方が来られており、関心の高さが伺えました。

日本人の死亡原因としては約1/3が動脈硬化性疾患（心筋梗塞や脳梗塞など）、1/3が悪性腫瘍、1/3がその他となっています。

心筋梗塞の発症機序について分かりやすく説明され、熊本県では年間1000人程度の心筋梗塞患者が発生しており、院内での心筋梗塞の死亡率は10%程度と改善してきています。

心筋梗塞の死亡の原因として多い、不整脈もAED（自動体外式除細動器）の普及により後遺症もなく救命できることも増えてきています。

続いて熊本大学が行った臨床研究についてご説

明がありました。

JAMISでは心筋梗塞後にアスピリンによる二次予防の有効性を証明し、JBCMIでは心筋梗塞後の二次予防にCa拮抗薬の有効性を証明し、MUSASHIではスタチン系薬剤によるLDL-C低下が心筋梗塞の二次予防に有効であることを証明できました。

国際学会でも熊本大学の発表数が全国有数で、熊本という地方の大学から全国・全世界に様々な情報を発信されている小川先生の情熱に非常に刺激を受けました。（文責：循環器内科 吉村）



お知らせ

【新任医師】



副院長(外科部長)
ハセ トモノブ
蓮尾友伸 医師



内科医長
イシダ シュンイチ
石田隼一 医師



内科医員
ジョウダイ タカユキ
城臺孝之 医師



産婦人科医長
クロダ クミコ
黒田くみ子 医師

- | | | | |
|--------|----------|------|----------------|
| 【退職医師】 | ・循環器内科医長 | 吉村拓巳 | 医師(6月まで毎週木曜外来) |
| | ・内科医長 | 吉村裕子 | 医師 |
| | ・内科医員 | 赤池公孝 | 医師 |
| | ・産婦人科医員 | 値賀正彦 | 医師 |

研修会・勉強会・行事予定表

4月 5日 (木)	看護学校第36期生入学式	13:30～ 看護学校
4月10日 (火)	マザークラス「母乳育児と栄養について」	13:30～ 当院6階講堂
4月11日 (水)	診療報酬改訂勉強会	18:00～ 当院6階講堂
4月13日 (金)	糖尿病教室「けっこう怖い糖尿病の現実」	13:15～ 当院6階講堂
4月20日 (金)	心臓リハビリテーション教室	13:30～ 当院6階講堂
4月27日 (金)	上天草がんサロン	17:30～ 当院6階講堂

医療施設の皆様の勉強会・研修会への参加をお待ちしています。
参加申し込み・内容等については『地域医療連携室：TEL0969-62-1547』までお問い合わせ下さい。

編集後記

○春の嵐で散ったのではないかと心配したが、嵐を乗り越えて咲く桜は更に美しく感じられる。新年度となる4月は一斉に花が咲き出し、学校や職場にも新しい環境に臨む緊張感が漂っている。当院の地域医療連携室にこの4月から、専任職員を置きました。更に地域の医療機関と当院との連携が深まることを願っています。よろしくご指導の程お願いします。(福田)

○今回で私の編集後記は最後となります・・・きっと。4月から新しい地域医療連携室体制となり、担当者が変わります。内容についてもより良いものになることを願っています。今後も上天草総合病院と地域医療連携室を宜しく願い致します。一年間ありがとうございました。(森口)

4月 診療案内

	月	火	水	木	金	休診日
内科 (代謝内科 消化器内科 呼吸器内科) 新患担当	樋口 坂本 和田	大村 和田 山城	坂本 大村 山城 和田(9~10時) 志摩(10時~)	樋口 和田 山城 石田	坂本 山城 城臺 応援医師	和田医師 25日 26日
循環器内科	脇田	脇田	脇田	脇田 吉村拓	脇田	
※ペースメーカー外来は(3、6、9、12月)に行います。						
小児科	神菌	神菌	神菌	神菌	神菌	
外科・肛門外科 消化器外科	福田	城野	福田/蓮尾	城野	蓮尾	
整形外科	藤松	上原	藤松	胤末(午後)	藤松	20日
※毎週木曜日は午後2時から午後5時まで診察を行います。						
産婦人科	姫野 黒田	黒田	姫野 黒田	姫野	姫野	
※姫野は男性医師です。黒田は女性医師です。						
耳鼻咽喉科	—	熊大	—	—	熊大	17日
眼科	竹下	竹下	—	竹下	竹下	5日休診 6日熊大 代診
※午後は、検査の予約外来です。ただし、月・水曜日は手術日です。						
皮膚科	—	—	—	尹	—	
泌尿器科	—	小川	—	—	—	
胃腸センター	蓮尾 城野 石田	福田 蓮尾	城野 和田 石田	福田 蓮尾	福田 城野 石田	
歯科・口腔外科	福田	福田	福田	福田	福田	
※午後は、1時~4時30分まで受け付けます。 また、火、木の夕方診療(午後5時~6時)も行います。						

教良木診療所 応援	大村	坂本	樋口	応援	黒田
御所浦診療所 応援	山城 (第2・4午前)	— —	竹下(午前)	— —	— —
御所浦北診療所 応援	—	—	—	城臺午後	—

※診療受付時間は午前8時30分~11時30分まで行います。

※眼科は、毎週水曜日の診療は休診になります。

※木曜日の胤末医師の**整形外科外来(予約制)**は、午後2時から午後5時まで診療を行います。

※歯科口腔外科は月~金の午後も診療を行います。又、火・木は午後6時まで診療を行います。

※**脳神経外科**は月2回(第2、第4水曜日)の午後2時より診療を行います。(予約制です)

※内科は、火・木の午後5時~午後6時まで診療を行います。

※泌尿器科は4月から毎週火曜日に診療を行います。